

6. これまでの受賞など

HICAREは設立以来地道な活動を続けてきたが、その活動に対していくつかの表彰を受けている。主なものは次のとおりである。

(1) 保健文化賞

HICAREでは、1996年(平成8年)9月に保健衛生の分野で、我が国で最も権威のある「保健文化賞(主催 第一生命保険相互会社)」を受賞した。同賞は、保健衛生を実際に著しく向上させた団体または個人、保健衛生の向上に著しく寄与する研究または発見をした団体または個人で、国内のみならず国外における業績に対しても授与される賞であり、当協議会の受賞には、海外の放射線被ばく者医療関係者の受入や、専門医師の海外派遣、研究成果の刊行、シンポジウムの開催など放射線被ばく者医療に関する国際協力の推進に貢献しているということが評価された。

また同賞の副賞を原資として放射線測定器、放射能鉱物標本を整備し、国内外で起こる放射線事故といった万が一の事態に備えるとともに、普及啓発事業として実施している講演会等に併せて放射線測定体験プログラムを実施した。その中で、参加者が実際に放射線測定器を用いて、放射線の測定が体験できる機会を設け、放射線に関する認識を深めていた。

また、1999年(平成11年)に発生した茨城県東海村における臨界事故においては、当協議会より派遣した医療チームが放射線測定機器を持参し、現地で医療支援活動に従事した。そのほか、啓発、HICAREのPRなどのための、他機関への貸出制度も設けている。



(2) 外務大臣表彰

2006年(平成18年)7月HICAREは、チェルノブイリ原発事故被災地を初めとして世界各地から医療関係者を日本に招聘し、広島自身の持つ被爆者治療や放射線障害の研究の経験・蓄積を国際的に普及させる事業を15年にわたり

展開しており、広島の世界社会への貢献と国際協力の推進に寄与してきた功績により、2006年度(平成18年度)外務大臣表彰を受けた。これは、HICARE及びその構成団体である、広島県医師会、広島市医師会、広島大学医学部、広島大学病院、広島大学原爆放射線医科学研究所、放射線影響研究所、広島原爆障害対策協議会、広島赤十字・原爆病院が、長年にわたり、県民、市民の支援を受けて行って来た、広島の尊い犠牲の上に蓄積された被爆者医療を通じた国際貢献の実績が、チェルノブイリ原発事故20年の機会に、国によりその功績が評価されたこと(県民、市民の支援を受けて、広島の医師・研究者が一体となって取り組んできた国際貢献への表彰である)によるものである。



(3) 中国文化賞

2006年(平成18年)11月に、HICAREは、中国新聞社の第63回中国文化賞を受賞した。これは、人類最初の被爆地広島において、原爆被爆者医療の実績や放射線障害に関する調査研究の成果を活かし、世界各地の放射線被ばく者医療の現場で大きな役割を果たしたこと、また海外からの医師等の受入研修、海外への医師等専門家の派遣を積極的に行ったこと、原爆医療解説書を出版して広島の放射線被ばく者医療の知識の普及に努めるなど、広島らしい国際協力をすすめて、世界の放射線被ばく者医療への貢献が国際的にも高い評価を受けていることが評価されたためである。



(4) 厚生労働大臣感謝状

東日本大震災における被災者の支援活動等に対し、2013年(平成25年)3月11日付けで厚生労働大臣から感謝状を受領した。

この感謝状は、2011年(平成23年)3月に発生した東日本大震災における被災者の支援活動等を行った団体に対し、その功労に報いるために厚生労働大臣より贈呈されることとなったものである。

HICAREは次の理由により感謝状を贈呈された。

① 専門家の派遣

福島県に放射線技師、看護師等を派遣し、スクリーニング(検査)、相談業務などを実施した。

② 政府への提言

首相官邸において「東京電力福島第一原子力発電所事故における放射線被ばくに関する提言」を行った。

